CELULAS

NPO法人 多言語広場（ピアザ）セルラス

世界に通じる人材の育成をめざして

2015
Vol. 1
創刊号

CONTENTS

P.2,3 世界に通じるリーダーを目指して
～セルラスリーダーズトレーニングキャンプ2015 報告～
世界にはばたくセルラスキッズ！
～アメリカ公立高校交換留学　鈴木嘉恵さん（高2）～
行こうよ！セルラス青少年サマーキャンプ2015
P.4,5 特集:「人に向かうとことばはできる」
～セルラス拡大コーディネーター研究会2015報告～
P.6 セルラスが出会った留学生
～日本企業に就職して　ミントさん（タイ王国）～
留学生に聞きました！日本のココにびっくり～自転車編～
セルラスクイズ　～ロシア編～
P.7 祝! ロシア語CD完成！～ロシア特集～
～ストーリーCD・ジャケットができるまで～
～作ってみよう！アニータちゃんちのピロシキ～
P.8 「伝え合える環境を」理事長:鈴木隆志

NPO法人 多言語広場CELULASは、多言語習得活動を基盤として、世界に通じる人材育成の環境作りを目的とし
2002年に内閣府の認証を得て設立された東京都所轄の特定非営利活動法人です。

★ 世界に通じるリーダーを目指して ★
～ セルラス・リーダーズトレーニングキャンプ2015 報告 ～

3月29日～31日の2泊3日、静岡県立三ヶ日青年の家でセルラス・リーダーズトレーニングキャンプが実施されました。
キャンプの主な目的は

「世界の人々と共に生きていく力」
「人々の中でリーダーとして全てのことに能動的に係わる姿勢」
「あらゆる状況の中で今、自分は何をすべきかを見極め実行していく力」

などです。

このキャンプへの参加は、地域のコーディネーターから日々のセルラス活動への姿勢が評価され、推薦されたメンバーが奨学金を得て参加します。
参加者は2泊3日のキャンプを有意義な時間にするために、関東、関西で2～3回の準備会を行います。
この準備会を通して、それぞれが参加目的と自分への課題を明確に持ちキャンプに臨みます。

参加者の憧れや目標になっているのは、全中高生から選ばれて1年間活動し、またキャンプの進行や運営にも力を発揮している、7名のジュニアリーダーです。
このキャンプはセルラスの日常活動を凝縮したリーダー養成の場で、全国から集まった中高大生が、多言語習得活動を基盤に、目的、課題、憧れ、目標というエネルギーを糧にして、互いに切磋琢磨し合い、「人に、社会に、世界に通じる人材」として育っていくことを目指した青少年育成の柱となる事業です。

みんながいいリーダーになった

留学生 Simon Munyu（サイモン ムニュ） ケニア

僕がピアザに行き始めた頃、日本語習い始めたばかりであまり話せなかった。
でもセルラスの人達はいつも日本語が上手と褒めてくれ、笑顔でピアザやキャンプに誘ってくれ嬉しかった。リートレも昨年参加したサマーキャンプとは全然違いそうで楽しみでした。
リートレは参加年齢も高く目標も違い、子どもが良いリーダーのスキルを身に付けるためにします。
プログラム内容はグループディスカッションが多く、
子ども達はいろんなことについて相談して時間を過ごしました。

子どもが自信を持って
自分の意見を出すのにびっくり

しました。子どもなのに相談している間遊ぶこともなく大人っぽいことを話していました。みんないっぱい話したから時間も足りないほどでした。
子どもが意見を出すのはとてもうまくて、
誰がジュニアリーダーかわからないぐらいすばらしかったです。
みんながいいリーダーになったと思いました。

みんなの変化や輝きが嬉しい！

三宅咲良 （ 高１） 梅田ピアザ

「楽しかった～！」今回のリートレは、この一言に尽きます。
一人ひとりがはじけて輝き、笑顔であふれていました。

衝撃的だったのが、
初日の自己アピールタイムです。

全員やると決まっていないのに「私が先に言う」と言わんばかりに我先に列に並び、全員が発表しました。自己アピールはどれも面白く個性が光り、
みんなのやる気が伝わってきました。
昨年のリートレでは、こんなにたくさんの人が積極的に自分を
表現しなかったです。どこが変わったか考えると、みんなの意識がとても高く、それぞれの決意がしっかり定まっていました。
各地域で準備会を重ねてきたからだと思い、準備の大切さを改めて感じました。
最も時間をかけたグループタイムのディスカッションは、
自分の意見を言う→人の話を聞く→また意見をのせる。

みんながいて自分がいて、自分がいて
みんながいる、を実感する場でした。

私がジュニアリーダーになって変わったことは、落ち着いて周りが見えるようになったこと。
みんなの変化や輝きに気付き、それを嬉しいと感じるようになりました。
リートレはスタートで本番はここから！ピアザや地域を青少年みんなで盛り上げ、これからもメンバーみんなで成長していきたいです。

自分を変え、真のリーダーへ

樋田奨平 （ 高１） 横浜土曜ピアザ

僕は今回のキャンプで

みんなの持っている可能性を引き出す！
という目標をたてました。

初日は、みんなが意見を出しやすいようにと、沢山自分が意見を言いましたが、それはかえって、みんなが意見を出しにくくしている事に気が付きました。
僕は自分が意見を言うことの方が好きなので、どうすればみんなの意見がでるのかを考え、もっと一人ひとりと、同じ目線になり向き合ってみようと思いました。得意な事だけではなく、苦手な事もやらなくては、
本当のリーダーにはなれないと考えたからです。翌日はこれまでと違う立場で発言してみました。すると、みんなが面白がって沢山意見を言ってくれました。心から嬉しかったです。その日の夜のミーティングでこのことを話したら、そこが自分の良いところだと理事長に言ってもらい、僕はとても救われた気がしました。

僕は上から何かを言うリーダーではなく、
同じ立場、あるいは皆の背中を後ろから押してあげられるリーダーになろうと思いました。

また、普段はJr.リーダーとして小さい子達の見本になるよう行動してますが、僕は自分自身を刺激するものを見つけられずにいました。というより、ただ待っているだけだったと、リートレで気付きました。みんな、「変わろう、変わらなくちゃ！」と必死に頑張っているのに自分は？ただ転ぶのを怖がってなにもせずじっとしていたんです。刺激は他の人から貰うものではなく自分で見つけるものだという当たり前だけど大切な事をみんなから教えられました。
これからはどんな事にもしっかりとした目標をもって世界に通じる真のリーダーへの道を歩んで行きたいです！

勇気を出して発言した自分に自信！

戸塚萌絵 （ 小６） 東高円寺ピアザ

私は今回、飛び級制度でリートレに
初参加しました。
一番楽しかったのは、グループタイムです。

最初は誰も手をあげずシーンとしていましたが、勇気を出して私が一番に手をあげました。
それからみんなも意見を出してきて、とても明るいグループになりました。
私もグループも成長したと思いました。でも少し、心残りもあります。
それはエントリー制のプレゼンテーションを、多言語なんか無理！と思ってやらなかったことです。でもその後理事長から

「失敗する子ほどのびる」という話を聞き、
やれば良かったと後悔しました。

来年は絶対、挑戦しようと思います。
またグループには、尊敬できるリーダーがいました。
みんなを笑顔にして支える姿がとてもかっこよく、私もJr.リーダーになりたいと思いました。このキャンプで私は自分に自信がもてるようになりました。
これからはもっと自分から周りを盛り上げる人になってJr.リーダーに近づきたいです。

本物の楽しさを味わった娘

吉川理恵 広島準備ピアザ
（吉川陽奈子（中1）母）

憧れのキャンプに初参加した娘。
そこには、たくさんの素晴しい仲間がいる。
みんなに会うと嬉しい！この瞬間を楽しみたい！と、
本気で全身で楽しみ笑顔で帰ってきました。
大変で難しい課題にチャレンジし、
何かを生み出し創り出した喜び。
何かを見つけ、わかり、心が通じた！
そんな本物の喜びと楽しさを味わってきました。
私はつい出来る、出来ない、の結果を見てしまいます。
でも大切なのは、やりたい！やってみよう！と思う気持ち。
やってみたからわかる事、学ぶ事が無限にある。
リートレは頑張れる場所、認めてもらえる場所。
意見や気持ちを出し合い信頼できる仲間と絆を深める時間。
だから楽しくて嬉しくて仕方ない！
もっともっと頑張りたい！そう素直に思えた娘。
人生は珍道中。何があっても笑って明るく、たくさん感動、
感謝できる毎日を大切に積み重ねて欲しいです。

次につなげることが大切

山川夏海（中1）西明石ピアザ

初参加で緊張のキャンプ初日を迎えましたが、一人ひとりが「やるぞ」という表情で目が輝いていて、私はなんだか安心しました。ジュニアリーダーは、グループが一番居心地のよくなるように考えてくれて、ディスカッションでたくさん意見が出たのも、彼らが意見を出しやすい環境作りをしてくれたからだと思います。私は自分の意見をたくさん出せたし、仲間の意見や違う意見をたくさん聞けて、いろんな考え方があることを知りました。
私はこのグループタイムが一番楽しかったです。そして、
私はこれまでの、少し後ろ向きな考えをもってしまう自分を捨てようと決めました。
また、リートレで学んだことを次につなげていく事も大切なことだと思いました。私はこれからも積極的にセルラスの活動に参加していきたいです。そして来年も、このリーダーズトレーニングキャンプに参加したいです。

★ 世界に羽ばたくセルラスキッズ ★
～ アメリカ公立高校交換留学 ～

幼いころよりセルラスの活動をしてきた鈴木嘉恵(かえ)さん（高2 梅田ピアザ）が、2014年8月から2015年6月の約10ヵ月間のアメリカ公立高校留学プログラムに参加しました。
セルラスでは、NPO法人ユートレックを通じ、アメリカ公立高校留学プログラムにセルラスメンバーを派遣しています。派遣が決まった参加者には、セルラスより奨学金が授与されます。
このプログラムは、ホームステイしながら現地の公立高校に通います。
帰国後進級するには、現地の高校生と同じ授業・試験を受け、単位を取得しなければなりません。

留学先は、ユタ州のBonneville高校に決定しました。現地の大自然の素晴らしさに世界観が180度変わったそうです。

ホストファミリーは、若い夫婦と3歳の男の子。
敷地が非常に広く、ホストファミリーに家の紹介をされた時には、セルラスのCD「家の案内・アメリカ編」が思わず口から出てきて快感だったそうです！
かえちゃん自身も、家事・庭仕事・Alstonのお世話（おむつの交換も）を頑張り、いつもMomから「Kae, thanks! You are a good helper.」と言われていました。
そんなかえちゃんの姿を見たMomの知り合いの方から、「私も留学生を受け入れてみたい。」と言われたそうです。

高校では、日本の学校にはない教科を選択し、World Language Crewクラブにも所属するなど新しいことに挑戦しました。

そして１月には月間最優秀学生賞に選ばれました。担任の先生は諦めずに頑張るかえちゃんはクラスの模範だと絶賛しています。
セルラスで培ってきた力で、困難なことも自分の成長の糧にしている証だと思います。ぜひ詳細をHPで読んでください。

★ 行こうよ！多言語広場セルラス 青少年サマーキャンプ2015 ★

ぼくは、キャンプで一番楽しかったのは、ロールプレイです。理由は、自由につくって想そうができやすいので、自分が夢の中へでも行ったようなかんじだったからです。
ほかにも、ごはんがおいしかったです。
ふだんあえない関東の人ともあえるので、今年も必ず、行きたいと思います。
梅原優太（小4）芦屋ピアザ

去年のキャンプから私はジュニアリーダーとして参加させてもらっています。キャンプはいつも楽しくて、行くたびに何かを発見できて、学べる場所です。そんな環境があるのは色んな人の支えがあるからだと改めて思うようになりました。今年のキャンプでは、この環境に感謝し、みんなが与えてくれたチャンスの場を無駄にせず、色んなことに挑戦、チャレンジ！していきたいです。楽しくて発見がたくさんのキャンプに、みんなと早く参加したいです！
キャンプでみんなと会えるのを楽しみにしています！
林真帆（中2）三宮ピアザ

8/17（月）～8/20（木）に、静岡市井川青年の家にて、青少年サマーキャンプが開催されます。
『ことばと心の扉を開いて』『違いは大切な宝物』がテーマです。今年は小6と中高大生が事前準備会を設け、プログラム作りから関わります。
留学生リーダー、Jr.リーダーを中心とした縦割りの活動は、セルラスの普段の活動が何倍も楽しくなるヒントがいっぱいです。仲間と共に過ごす3泊4日は、この夏の最高の想い出となるでしょう。そこには仲間との友情、感動と発見、そして自分自身の成長があります。行くと行かないとでは大違い！
小3以上のみんなの参加を待ってま～す！

特集

“ことば”にではなく…“人”に向かうとことばはできる

≪セルラス拡大コーディネーター研究会2015（1月~4月 全8回）報告≫

拡大コーディネーター研究会とは？・・・関東・関西で同時に行っている、今のセルラスの活動を検証・実践し、深めていくコーディネーターの研究会です。コーディネーターだけでなく、参加したいメンバーも募って行い、ピアザを越えたメンバー同士のつながりを深めることが出来ます。

今回の研究会では、**「伝えたい思いを、伝えたい相手に、伝えられる手段で伝える」**ためのロールプレイを目指しました。２０１１年から始まった研究会も今年で5回目です。ただセリフを言い合うだけのロールプレイであった時から、まず日本語でロールプレイをやってストーリーが体感できることの楽しさを見つけ「学習の系から遊びの系へ」「ロールプレイを遊ぶとことばができる！」等様々なことに気づいていきました。

そして昨年から、ロールプレイにルールが生まれました。最初に物語の場面の風景や人物の性格を、思いっきり楽しく考え、立ち位置を決めて、元気に始めました。**その場にいる人たちと一緒に創造したイメージが共有できる**とその物語の世界を皆と一緒に実現したい！という思いから、それがまだ言えない多言語でも、ジェスチャーや表情等あらゆる手段を駆使して、伝えようとしていました。そして多言語が「まだ言えない」から**「一言でも言えたらすごい！」という実感**に変化していきました。

そんな体験を通して感じたのは、**「ことばはひとつだ！」**ということです。

様々な言語は音が違うだけ。伝えたい思いがあること、それを伝えたい相手に心から伝え合う姿勢、そんなすべての言語に共通する「言語の根幹」を育てることが言語音声に触れることと同時に本当に大切なことだと気づきました。

セルラス多言語活動 ロールプレイの変遷

2015年 伝えるロールプレイ

≪「言える」外国語から「伝える」ことばに ≫

あまり言えないうちから多言語で相手に伝えようとしたら、意識しなくても自然に体が動き、相手の目を見て、声のトーンが変わり、表情も変わりました。赤ちゃんが生まれた瞬間から、ことばは言えなくても全身全霊で伝えようとしている姿と重なりました。

音声が先ではなかった！伝えようとする意思が先？！

新しく出たロシア語を聞いたら、すごくゆっくり聞こえた!!! 同じ場面を他の言語でロールプレイしていたから全部わかる!!

皆で一緒に考えて場面をよりリアルな設定にしたら、本当にそこに行った気がした!!

イメージの共有

2014年 遊びにルールができた！

≪設定からのロールプレイ≫

セリフは基本的には変えずに

①場面設定　②登場人物の性格・関係性

③配役と立ち位置　④エールをかけて始めよう

サマーキャンプ2014でスタート！キャンプで一番楽しかったことは？というアンケートに、（例年ダントツ1位のキャンプファイヤーを抜いて！）たくさんの子供たちが、ロールプレイ！と書きました。

2013年 ロールプレイを遊ぶ！

≪学習の系から遊びの系へ≫

2012年

日本語ロールプレイでストーリーが立体化

~2011年 言語音声からとらえる＝器作り

※文法や文字からではなく、言語を音声からとらえることは重要ですが、音声のみに意識が集中した時期は場面全部言えるようになってからロールプレイを始めていました・・・それはほとんどがセリフをただ言い合うだけのロールプレイでした。

文法を気にしないでいいのはラク。場面全部言えるようになったけど…最初から言わないと、言いたいことばに到達できない…

赤ちゃんは人類史を再現している？！

私たちはともすると、言語は“あるもの”だと捉えがちです。しかしながら20万年前に人類の祖先のホモサピエンスが現れてから15万年の間は、言語を持たずに様々な手段でコミュニケーションを取っていたのではないかと言われています。

赤ちゃんの言語習得のプロセスは人類史を再現?!している様にも見えます。

本来言語は“あるもの”ではなく人と人との間で“創り出していくもの”ではないでしょうか？

入会2ヵ月で研究会に参加!!

ロールプレイをきっかけに大きな変化が！

溝のロピアザ　尾本佐和

【外国語嫌いの私が中国へ】

もともと私は外国語に全く興味は無く、外国人と触れ合う機会もなければ、積極的に触れ合おうなどとは、考えたこともありませんでした。
そんな私に「夫の中国赴任」という転機が訪れました。
様々な不安を抱えながらもあれよあれよという間に準備は進み、気が付くと中国での生活が始まっていきました。

【猛勉強の末に点数は取れても、中国人と話すのは大変！】

生活する中でやはり一番問題となったのが「言葉」でした。
私は自分の不安を解消するため中国語を勉強し始め、気づけば家庭教師と1回2時間、週5日のレッスンを行い、最低でも１～２時間は復習をし、夜眠るときでさえも中国語のCDを聞くという、ハードな勉強を行っていました。
結果、2年余りで私の中国語レベルはかなりアップし、テストを受ければ「ネイティブと流暢に会話ができて、ニュースや新聞などもほとんど理解できる」というレベルの点数まで取れるようになりました。
しかし、実際はネイティブ同士の会話にはついてゆけない、聞き取れない、通じない、そして常に頭の中には「これは文法的に正しいか？」という考えがあり、ネイティブの人と話をした後には必ずと言っていいほど「ああいえばよかった。こういえばよかった。」と後悔をしていました。

【子供も外国語・外国人嫌いに・・・】

そのころの私は言語に対して「正・誤」が全てで、「楽しい」という感覚は皆無でした。そして当時の私はこう考えていました。
「やっぱり言葉というのは苦労してこそ身に付くものであって、私が苦労して勉強する姿はきっと子供にも良い影響を与えて、自ら学習するようになるはずだわ」と。
ところが蓋を開けてみると、子供は大の外国語嫌い、外国人嫌いになっていて、特に中国語には「嫌悪感」までも抱いているように見えました。

【セルラスに入会　大いに戸惑う！（笑）】

そんな状況を改善したいと思っていた2014年11月、私はセルラスのセミナーに参加し、12月に正式入会、現在に至ります。
正直、最初は戸惑いの連続でした。
なぜなら、活動拠点である「ピアザ」に行っても言葉を勉強するどころか、フェスティバルのエールの振り付けを踊ったり、クイズをやったり、という感じで、ようやくロールプレイをやっても「設定を決める」ことに対して「学習脳」満載の私は、意図がよく理解出来ず、毎回「？？？」という思いを胸に帰宅していました。

【間違うことを気にしなくなった私】

そんなある日「コーディネーター拡大研究会に参加しない？」と誘われ、軽い気持ちで参加したのですが、その研究会でのロールプレイをきっかけに、私の中で様々な変化が起き始めました。
最初に起こった変化は、**「楽しむ」**ということでした。
場所、人間関係、それぞれの性格など細かい設定を話し合い、イメージを共有し、そのうえでロールプレイをすると、様々な言葉がアドリブとして出てきて、それに自然と反応する自分がいて、そして何より驚いたのが私が**「セリフを思い出そうとしていない」**ことでした。
そして設定を変えていくつかロールプレイをやるうちに、いつしか私は「間違える」ということを気にしなくなってきていました。
「正確でなくてもいい」という雰囲気は、私の中のadultの部分を確実に小さくし、childの部分を大きくしてくれました。つまり、話すことを純粋に「楽しめる」ことに喜びを感じ、私たちが常に感じてしまう「間違えることの恥ずかしさ」を払拭してくれたのです。
そんな私を見たからか、それともピアザで様々な人に受け入れられた結果か、子供の様子にも変化が現れ、家でも積極的に多言語を使うようになり、外国人にも臆することなく近寄っていくようになりました。

【子供の口から英語が】

ある日ノルウェー人留学生が4人遊びに来るという土曜下北沢ピアザに、小１の息子と参加しました。
その時の帰り際の息子とのやりとりです。

さぁ　りゅうのすけ、帰りましょ。
あ、その前にあなたも留学生たちにごあいさつしてきたら？

うん！「ハピィチュハプメッチュ！　テイケア！」
（＝I’m very happy to have met you! Take care!）

すごい、りゅうのすけが何か言ってる！
しかも通じているみたい・・・　ハグされているし！！
確かに、家でシャドウイングは一緒にしていたけれど、どうしてこんなにすんなり、場にぴったりのことばが出たのかしら・・？
私は考えてやっと彼らと話せたのに。

ねえ、りゅうのすけ、
今のことば、シャドウイングで聞いてた音だよね。
それを言おうって考えたの？

ううん。さっきお母さんが言ってたのを聞いて、マネしただけだよ！ お母さん、おうちに帰ったらまたCD聴きたい！！

きっと、ピアザでロールプレイを楽しんで、無意識に、風景と音がとりこめていたのね～！

今思うと、私が外国語が嫌いで外国人が嫌いだったことが、子供に影響していたのかもしれません。
大人にとって「ピアザ」は、今まで作ってきた劣等感やプライドなどの鎧を脱ぎ捨てる勇気をもらう場所で、子供にとっては学校や塾、社会から植え付けられる固定観念をリセットするところなのかなと思います。
私にとっての「セルラスでの活動」や「多言語習得」への道はまだまだ始まったばかりですが、これからたくさんの新しい扉を開いていく勇気を「ピアザ」で育て、「Yes, but…」から「Yes, I do!」と言える私になりたいと思っています。

★ セルラスが出会った留学生 ★

＊日本企業に就職して＊

CHANTANASOT　NATNICHA （ミント）
出身国　タイ王国

東京農業大学大学院農学研究科
国際バイオビジネス学専攻　修士修了
2013年4月より、食品メーカーへ入社

サワッディカー（^人^*）タイ出身のミントです。
私は、子供の頃から日本の文化や発展した日本社会への憧れを持ち、日本という国に不思議な魅力を感じていました。
そのような漠然とした思いを抱きながら、東京農業大学への留学制度の存在を知り、ついに夢であった日本への留学が実現しました。今年度で来日９年目となります。

来日した３年目にセルラスの事を初めて知り、サマーキャンプリーダー募集説明会にて理事長の「違いは宝物だ」の話に感動した事がきっかけでセルラスに参加し始めました。
サマーキャンプを皮切りに様々なセルラスの活動に参加してきましたが、場の雰囲気や皆さんの優しさに惚れてしまい、今でも度々お邪魔しています。

今では、私にとってセルラスは日本の生活の中でとても大切な存在となっています。

現在勤めている会社は質の高い食品を提供している企業として有名であり、将来東南アジアの食生活改善に貢献しながら働くことができると考え、入社を決意しました。

部署では唯一の外国人で、社内社外を含めて100%日本人と一緒に日本語で仕事をしています。本当に多くの事を学ぶことができますが、文化や生活習慣など育った環境の異なる私が、日本人の中に混じって働くことは言葉の壁をはじめ、色々と大変なことも当然あります。

ここで、日本で働いて驚いたことをご紹介したいと思います。

◆皆が真面目に働いていて、誰も怠けていない（笑）
日本人の仕事に対する熱意には本当に驚かされます。
母国のタイではほとんどの人が日本人ほど真面目に働きませんし、割と皆がのんびりしています。

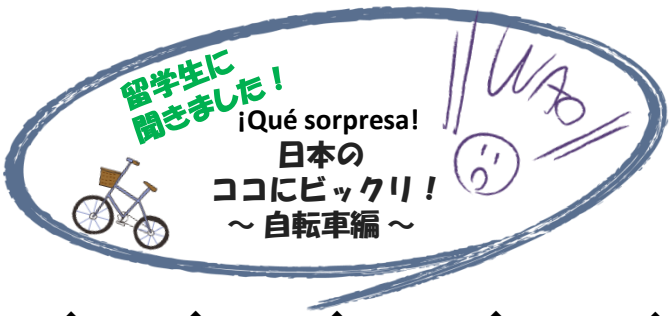
◆残業や飲み会など仕事関係の拘束時間が長い
母国のタイでは仕事が終わった後はすぐに帰り、家族との時間を大切にする人が多いため、日本人が家族と接する時間の少なさに驚きました。
家族がなぜ怒らないのか不思議です。

◆相手を思う気持ち
日本人の相手に配慮をする考え方は世界一だとすご～く思います。営業職をしているので余計にそう感じるのかもしれませんが、お客様に対して細かなところまで気を配ることはとても感心しました。

◆空気を読む習慣が、まだよく理解できない
物事をはっきりと言い表さないのは日本語の良い点（？）でもあり、悪い点でもあります。
特に仕事上ははっきりとことばで伝えないとミスが起こる原因にもなりますし、たまに日本人同士でも勘違いをして誤解が起きているのを見かけます。

◆違いは宝物
ある外食店がイスラム教徒等のために、店舗の看板に「ハラール対応」と書こうか検討しているという情報を聞いた際、同僚の皆が「ハラール対応って書いてしまうと日本人が入らなくなるだろうね」と言っていました。
その言葉を聞いたときに、ハラール＝まずいものという印象を持つ日本人が　こんなに多いのかと大変驚きました。
日本人は同じ日本人の中の違いにはとても敏感なのに、世界の中での違いにはちょっと鈍感かなと感じました。

日本で働く日々は大変ではありますが、セルラスのおかげで「驚き」、つまり自分との「違い」を楽しんで働けています。今後更に多くの「違い」を体験でき、視野を広げていけることが楽しみです。



◆自転車が曲がるときに、手振りで　意思表示しない。
（急に曲がって危ない！）
・・・インド

◆おまわりさんが自転車にのっている。
（そんなんじゃバイクで逃げる悪い奴やどろぼうをつかまえられない）
・・・中国

◆おばあちゃんが自転車にのっている。
（私の国では、歳をとったらそんなことはできない）
・・・ケニア

◆自転車の女乗りにびっくり！
（サーカスの曲芸師みたい！）
・・・スイス

◆ミニスカートで自転車にのっている
（ワォ・・・汗）
・・・韓国

ちょっと　ひといき♪

セルラスクイズ　～ロシア編～

横浜火曜夕方ピアザコーディネーターの守田です。
セルラスのロシア語ＣＤを聞いていると、
いろんな音が聞こえてきます♪
あるストーリーの乾杯のシーンで、
日本語の『ダンナ！』と聞こえた気がして、
ロシア語がとても楽しくなりました！
皆さんもどこにあるか聞いてみてくださいね！

さて、**ロシア語ＣＤクイズ**です。
ＣＤを聞いてクイズに答えてください。

① みんなで楽しんだストーリー「自慢の娘」でたくさん聞こえた**「オーチン」**。さて、何回出てきたでしょう？

② ストーリーブックの中で、一番たくさん**「オーチン」**が出てくるストーリーはどれでしょう？
また、何回でてくるかわかりますか？

（答えは最後のページにあります）

★祝！！ロシア語CD完成！　～ロシア特集～ ★

◆ ストーリーCDができるまで ◆

制作担当者 ： 事務局長 初芝理恵

Start

ストーリー制作（ロシア編の3場面）

翻訳者探し＆依頼

翻訳

翻訳チェック

声優募集・ディレクター依頼

声優オーディション

声優審査・配役決定

録音スケジュール組み

録音

編集

録音チェック

編集直し

BGM選び＆BGM挿入（ロシア編の中に1曲追加）

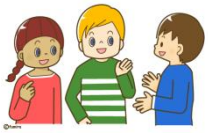
CD最終チェック

CDプレス

Goal

CD完成

大まかには、このようなプロセスでセルラスCDが出来上がります。そのーつひとつには、ここには到底書ききれない細かい作業があります。セルラスCDは、ストーリー制作から始まり、翻訳、声優募集、録音、ジャケット制作に至るまで、多くの素敵な協力者たちが、まさに一緒に創り上げていくのです。



録音ひとつとっても、録音しながら、声優、ディレクターと共にセリフをより自然な表現に変えたり、ディレクターやこちらからの指示だけでなく、声優たち自身が時には話し合って表現していく録音風景は、真剣でありながら、笑いが絶えません。

ストーリーと場面や登場人物の性格などイメージを共有した声優たちの関係性は、すっかり世良家族やロシアの家族、アメリカの家族たちになっていきます。

「人と一緒に」
生み出されたセルラスCDは、単なる語学教材とは違い、セルラスの仲間たちによって、この物語とことばが幾重にも重なり、想像が広がり、まさに育っていくCDです。仲間の数だけ出会える風景とことばが自分の世界を広げ、宝物のように嬉しい自分のことばが育っていきます。

◆ CDジャケット＆レーベルができるまで ◆

原稿作成 → 作成依頼＆作成 → レーベル校正 → レーベル入稿

ロシア人留学生
～ロシア語CD、イラの声担当です！～

作ってみよう！ アニータちゃんちのピロシキ

材料）　具　①　ゆで卵1個　キャベツ適宜　塩こしょう
②　じゃがいも1個　玉ねぎ半個　塩こしょう
③　ひき肉　玉ねぎ　塩こしょう

皮　強力粉2カップ　イースト小さじ2　牛乳150cc　塩小さじ1

作り方）

●皮をこねる
ボールに強力粉･イースト･塩を入れ、人肌に温めた牛乳も入れて混ぜる。よくこねて発酵！
（ロシアでは暖かい場所で3時間くらい（途中1時間ごとにこねる）寝かせるそうですが、炊飯器の保温で、30分に短縮可。）
写真のように指の跡がつけば、発酵完了！ガス抜きして、丸めましょう！

●具を準備しておく（皮を発酵させている間）
①　キャベツを1㎝角に切って炒め、さいの目に切ったゆで卵をひと混ぜし、塩こしょうで味を調える。
②　じゃがいもは洗って、皮のままラップして電子レンジで加熱。皮をむき、さいの目に切っておく。
玉ねぎもさいの目に切り炒め、透き通ったらじゃがいもも加えてひと混ぜし、塩こしょうで味を調える。
③　ひき肉と玉ねぎのみじん切りを炒め塩こしょうで味を調える。

●皮に具を包む
発酵が終わった種を棒状に伸ばして10等分に切り分ける。
麺棒で切り分けた種を丸く平らに伸ばす。
準備した①②③の具をそれぞれ皮に入れて→餃子のように口を閉じていく。

●焼く
フライパンに油を多めに敷き、熱して両面をきつね色になるまで焼く。召し上がれ！

創刊挨拶

「伝え合える環境を」

NPO法人 多言語広場CELULAS
理事長　鈴木隆志

「無表情で声も小さいし記号を並べているようなことばで、
感情が伝わらないから、何が言いたいのか分からない」
「何かを言う子はまだいいけれど、YESやNOも表現出来ない子は
どう対応したらいいのか？」
これは以前、アメリカでのホームステイに中高生を引率した際、
アメリカ側のスタッフやホストファミリーから出た一番多い苦情でした。

日本の外国語教育では入学試験や学力テスト等々、
試験重視のため完璧な英語を求められます。その結果正しい英語にこだわり
考え過ぎて話せなくなり、外国語苦手意識は今や日本の環境の一つになっています。

外国語を理解する機械と向き合っているのではなく、人間と向き合っているのです。
コミュニケーションの基本として大切なことは、自分の思いや意見を、全ての言語行為を使ってでも、
相手に伝えることで、正しい文法でも単語でもありません。

セルラスは、赤ちゃんの母語習得に学んだことば（外国語）の習得活動を実践、研究しており、
赤ちゃんは文字や文法からではなく、音声からですよと言い続けてきました。
ですが「音声から」はともすると「音声を持ってから」になって、ここでも完璧を求める結果に陥る
可能性が出てきます。

赤ちゃんの意思の伝え方は、完璧に言える音声言語からではなく、手足バタバタや喃語からです。
大事なことは、これは文法や発音が正しく言えるようになる準備ではなく、今できる最大の表現をしている
と言うことなのです。

私たちが目指す言語環境では、ちゃんと言えることのみを評価するよりも、人と「伝え合える」を大切に出来る
環境でありたいですね。

環境と言えば、「孟母三遷の教え」。紀元前に孟子の母親が我が子の教育環境を探す為、三度教育の場を変えたと
言われています。21世紀グローバル社会に生きる私たちは、環境を探すのではなく、力を合わせて世界に通じる
人材育成の環境を作って行きましょう。

**セルラスでは、全国各地で
様々なイベントを開催中です。
詳しくは
セルラス ホームページを
ご覧ください！**

メルマガも随時配信中！

CELULAS

＝　編集後記　＝

機関紙「CELULAS」創刊号はいかがでしたか？
セルラスの『今』をことばに紐解き、伝えるという
重大な使命を受けて発足した広報プロジェクトチーム。
昨年11月の活動開始からHP・メルマガ・今回の機関紙と
様々な角度で活動を改めて見つめてきました。

感じたのは「セルラスは常に進化している」ということ。
この進化を作っているのはセルラスのメンバー全員。
私達はこの動きを出来るだけタイムリーに、そして
分かりやすく、これからもお伝えしていきたいと思います。

とは言え、創刊への道のりは山あり谷あり…。
伝えたい思いをことばにすることがいかに難しいことか。
でも『人と一緒』だから乗り越えられる！
チーム全員で今の活動の中心にある『伝える』ことの
大切さを再確認しながら創刊に至りました。

さて、私たちの思いは伝わりましたでしょうか ？
是非、ご意見、ご感想をお聞かせ下さい。
またこの機関紙が、ご家族で、ピアザで、
セルラスの活動や目指す環境について、
改めて話をするきっかけとなれば幸いです。

広報プロジェクトチーム
石川茂子　河野美穂　笹倉一恵　夏目里香
林裕子　福山真弓　守田美和　（五十音順）

発行元
ピアザ　セルラス
NPO法人 多言語広場CELULAS
本部事務局
〒151-0053
東京都渋谷区代々木2-23-1 ﾆｭｰｽﾃｲﾄﾒﾅｰ1038
TEL:03-5333-8202（代表）　FAX:03-5333-8203
関西事務所
〒553-0007
大阪市福島区大開1－10－10
TEL＆FAX:06-7493-7931
URL：http://www.celulas.or.jp

◇P.6　セルラスクイズの答え：
① 6回　② Disk-2-13「新たな始まり」19回